

## 第10回沖縄県教育委員会会議（臨時会）

1 日時        平成22年8月6日     10時06分～10時48分

2 場所        教育庁第一会議室

3 出席者

委員	比嘉    委員    (委員長) 鎌田    委員 安次嶺 委員 中野    委員 新垣    委員 金武    委員    (教育長)	(欠席委員)
----	--	--------

教育 庁	統括監等	教育指導統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長 財務課学校予算・振興班長 施設課長 福利課長 県立学校教育課長 義務教育課長 保健体育課長 生涯学習振興課長 文化課長 全国高校総体推進課長
	職務のため 出席した者	(事務局) 総務課総務班長、総務課総務班主査（2人）、 総務課教育企画監、総務課教育企画班主任指導主事、 総務課教育企画班指導主事

4 傍聴した者

記者2人 / その他0人

平成22年第10回県教育委員会会議（臨時会）

（開会10:06）

委員長	ただ今から平成22年第10回県教育委員会会議・臨時会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は新垣委員にお願いします。
新垣委員	はい。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	今回は教育長報告はございません。
委員長	それでは、議事に入ります。本日は議案が1件となっております。それでは、議案第1号の説明をお願いします。
総務課長	（議案説明 ・平成22年度沖縄県教育委員会の点検・評価について）
委員長	それでは、御質疑ございますか。
鎌田委員	教育委員と事務局で検討を重ねてきた。初回が41頁、2回目が92頁、3回目の今回が126頁と、ページ数でも年々充実していることがわかる。また、発行時期も、平成19年度を対象にした初回は次年度の事業がほとんど済んでいる平成21年2月だったが、20年度を対象とした2回目は21年11月、21年度を対象とする今回は9月議会に報告と進歩している。 ただ、細かい点で何点かある。まず、企業代表の宮城先生から、まえがきに「点検・評価の意義、学校現場や各教育機関で活用されることを願う」趣旨の記述があるといいと御指摘があったので、追記を検討してほしい。 また、津留先生の意見書の中で「本県の『教育の目標』には『生涯学習社会を形成する』となっている。」とあるが、これは「形成する」ではなく、「推進する」ではないか。「参考資料 教育施策の体系（教育委員会）」の「教育の目標」では、「生涯学習社会を推進する。」とある。この部分の御指摘ではなかったか。御本人に確認してはどうか。
安次嶺委員	概要版を作ることになったのは大きな進歩だ。主要施策ごとにPDCAに則ってフォームに当てて、解りやすくしたことは大変評価できる。しかし、施策ごとにまとめ方の度合いにばらつきがある。内容が多いものは、細かい数字が多い。取組と成果で同じ数字が出るのは読みづらいので、重複するものはうまく整理し、コンパクトに取組のあらすじを示して、データは成果にまとめれば読みやすいと思う。全体的に読みやすくコンパクトに、原則的に

	<p>それぞれの施策が1頁に収まるぐらいにすれば全体のバランスもとれる。これだけの内容が既にあるから、後は短くする作業だけでよいのではないか。いずれにしても、概要版は、本編の内容から切るべきものは切って大事なものを持ってきていると思う。後一步読みやすい形にすればよりいいと思う。</p>
中野委員	<p>私も2年目になるが、3回この報告書作りに関わった。試行錯誤でやってきた点検評価がこんなにもよくできてきたということは感慨深く、事務局に感謝したい。しかも、今回は次年度の予算確保に間に合わせて議会に報告できるということは大きな進歩だと思う。</p> <p>沖縄県の課題として、人材育成にはいくらお金をかけても足りないが、予算確保の視点が欠けているのではないかと感じる。私達は教育委員会の役割を充分果たすべく努力してきた。平成19年度の法改正で教育委員会の責任体制が明確化され、合議制の委員会の責務が6点ほど示されている中で「予算等に関する申出については自ら管理執行すること」と謳われており、教育委員は事務局と一緒にあって人材育成のために予算を投資させてもらわなければいけない。お互いに課せられた責務は大だ。その意味で予算確保に努力する項目が、今後の取組の中に強力に位置づけ、知事部局とのネットワークを密にして人材育成のための予算確保に努めるということも書いてほしい。</p>
委員長	<p>概要版と本編の両方の教育委員会の会議の箇所で、人材育成のための予算確保を教育委員会としてしっかりと訴えていくということを加えるということ。書き方については事務局に任せる。</p>
新垣委員	<p>今回初めて点検評価に関わった。最初の頃は活字が多く読む気にならないものが多かったが、最終段階では手に取るように1年間の各課の仕事がよく見える。県民の誰が見てもわかるような文章、整理がされている。これ1冊あれば説明しなくても教育委員会の取組が手に取るようにわかるように整理されているのが本当に嬉しい。また来年、再来年向けにもっといいのがきるのではないか。これなら読んで説明できる内容だ。ひとつ要求したいのは、教育施策の体系の字が小さ過ぎるので、これが大きかったら良かった。</p>
委員長	<p>指摘の部分については、文字を大きくして見やすくしてほしい。</p>
安次嶺委員	<p>今年はこれでよいが、将来に向けて、もっと手に取ってみたいと思わせるためにビジュアル化できないか。例えば、若いお母さん達や高校生でも読みたいと思うようなになればいいと思う。沖縄にはこれだけ独特の文化・歴史がある。前書きにたった1行しか書いていないのが残念だが、沖縄は他の県とは違うということを示さなければいけないと思う。沖縄をイメージするもの、沖縄の自然の写真や、また沖縄の子供達はミュージシャンも多いので、安室奈美恵やゴルフの宮里藍等、各界で活躍し、頑張っている沖縄の子供達</p>

	<p>の顔が見えるようなものを考えてほしい。カラーのページも加えれば、文章よりもはるかに訴える力は大きいのではないか。ところどころにそういう絵があれば、見る方も取ってパラパラとめくるといことはあるので、ぜひ、読ませる、読んでもらう工夫を来年以降、考えてほしい。</p>
鎌田委員	<p>生涯学習の主要施策5は、今回は施策項目3つのうち1番目の内容、図書館について強調している。他に、時代のニーズに応える社会教育活動の充実、躰・心のふれ合い・家庭教育の充実の2項目ある。学力テストの結果が話題になり、最下位である背景の分析で、学校現場も一生懸命、改善に向け頑張っているが、家庭教育で家庭学習の習慣があるかどうか。いつも言うように、小学校1年から親力がスタートするわけではない。そういう視点から主要施策5では図書館関係に加えて家庭教育についても記述できないか。そうすれば次年度で還元されやすくなる。概要版は特に絞った重点事業でまとめていて、本編の方には家庭教育も入っているが、学力テストがクローズアップされるとどうしても家庭教育というのはセットで出てきて、就学前、幼稚園の問題とも連動する。家庭教育の取組も強化していることを出していくためにも、ここは補足したいと感じた。</p>
委員長	<p>以前に各課長に重要事業は何か話してもらった中で重要とされたものをこの概要版の中で整理してもらった。改めてまとめられたものを読み直すと、これは必要ではないかという点が、鎌田委員から出てきている。加えるということで、よろしいですか。</p>
中野委員	<p>はい、賛成です。</p>
委員長	<p>他にございますでしょうか。</p>
中野委員	<p>後は事務局と微調整を委員長に一任したいのですが、いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>はい、それでよろしいですか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>それでは、各委員から御意見をいただき、その修正を加えて最終的には委員長一任の上、事務局と調整をして提出するというので、全体としてはこれで承認ということで、よろしいですか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>このとおり決定します。</p> <p>自己点検評価の平成20年度版は21年2月に出され、ほとんど数値での報告だった。私が教育委員長になってすぐに出されたものだが、法律が改正されて初めての点検評価で各県ともに手探り状態だった。知事部局の行政評価の手法や分析方法も参考にしながら作った。それが41ページだったのに対して、21年度版は92ページで、21年11月の議会に提出した。21年度版からは、</p>

数値だけではわからない様々な教育施策、事業について文章で表現し、PDCAに則って、どんな事業にどのように取り組み、どのような成果や課題があって、今後どう取り組んでいくかという形に変えた。有識者の知見活用も、20年度版は意見書だけいただいていたものを、21年度版は有識者会議を2回もって策定した。今回は有識者の数も5人に増やし、2回集まっていただき、御意見や意見書をいただいた。そして教育委員会としても4回の会議をもって詰めてきた。かなり実質的な形で点検評価がまとまってきたと思う。

反省事項としては、スタート時点で目的と意義を確認し、どのような方針、スタイルで点検評価を進めていくか皆でしっかりと話し合ってから進めることが必要だったが、できなかった。今回は、報告書がある程度まとまった段階で概要版を作るための重要事業を整理するために各課長に集まってもらい、説明してもらったが、これを最初にすれば、事務局としてはもっと書きやすかったのではないかと思う。年度が変わって担当が変わったり、また高校総体等事業が多い中で各課担当者が苦勞したのではないかととても心苦しく思う。だから来年からは最初で教育委員もまじえて目的や方針を確認し、教育長そして統括監の下に各課が一緒に、成果、課題、今後の取組について読み合わせながら進めれば、もっと課題や今後の取組方が見えてくるのではないか。今回の有識者としてご参加いただいた宮城常務から「作ることが目的ではなく、現場で活用されることが目的だから、そのためにどうしたらいいかを書いてほしい。」と話があったが、まさにその進め方が幅広い活用につながるのではないかと思う。

私達合議制の教育委員会は、平成19年の改正を受けて去年からかなり活動してきたが、その理由について、もう一度確認させてもらいたい。文科省のホームページ「教育委員会制度について」によれば、教育委員会制度の意義として、政治的中立性の確保、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映があげられている。特性としては、首長からの独立性。首長から独立した中で中立的・専門的な行政運営を担保するという。そして合議制。教育委員全員が多様な属性を持っており、その合議によって、様々な意見や立場を集約した中立的な意思決定を行うということ。これが教育委員会の特性としてあげられている。そして住民による意思決定、レイマンコントロール。住民が専門的な行政官で構成された事務局を指揮監督する仕組により専門家の判断のみによらない、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現するために教育委員会がある。

平成19年の地教行法の改正で、教育委員会の責任体制が明確化された。そ

れによれば、合議制の教育委員会は、1番目に基本的な方針の策定、2番目に教育委員会規則の制定改廃、3番目に教育機関の設置廃止、4番目に職員  
の人事、5番目に活動の点検評価、6番目に予算等に関する意見の申出、こ  
れらについて自ら管理執行することとされている。この6点をどのように実  
現、実践するのか、点検評価を通じて改めて皆で考えた。そして教育委員会  
の充実という項目は教育委員会で話し合って作った。平成21年度活動してき  
て、何が成果だったのか、課題は何か、今後の取組はどうしたらいいのか、  
とことん話し合い、教育委員会自ら書かせてもらった。これをベースにし  
て、教育委員会活動が本当に子供達のため、そして沖縄県民のために、より  
充実し、より意義のある活動ができるようにと願いを込めた。その分事務局  
の作業も大変だったと思うが、この苦労は絶対に活かされてくると思う。

今年大きな成果の1つが概要版。安次嶺委員から、もう少し県民が読み  
たいと思うようにビジュアル化してほしいという意見があった。たくさんの  
県民が教育委員会、事務局、学校が頑張っている姿がわかるように、わかり  
やすい概要版で表現し、公表できたらと思う。その辺は来年に預ける所だ  
が、3年目である程度形ができたと思うので、これを活かして来年度以降さ  
らに充実した活動、教育行政ができることを願って閉会したい。

本当にありがとうございました。お疲れ様でした。